

データ主導のデジタルトランスフォーメーションを促進

データ連携基盤ソリューション

Informatica Cloud Integration Hub (CIH) をテクノロジベースにしたデータ連携基盤により
システム間データ連携の疎結合化と運用管理の一元化を実現します。

国内最大規模のデータ連携基盤導入実績を持つ NTT データが、
整合性の取れた信頼できるデータを供給するデータ連携基盤構築をご支援します。

P2P型



- システム間のデータの流が把握できない
- 連携ロジックがブラックボックス、硬直化
- 開発・運用コストが増大

ハブ&スポーク型



- データ連携基盤を中心にデータの流通を可視化
- システム間の依存度を下げ、柔軟に連携
- I/Fの冗長性排除による開発・運用コスト削減

導入効果

データ流通経路の見える化

データ連携元から連携先まで、CIHを経由したデータフローの可視化が可能のため、関連システムの特徴が容易になります。
データの発生～活用先までのメタ情報を元にデータガバナンスの強化が図れます。

変化対応力の向上

新たに連携システムが増えた際、データの変換処理（文字列操作、結合、データ型変換、コード変換等）の組み込みや変更をGUI環境上で簡単に行えます。新規システム追加や新規サービス利用を容易にし、ビジネス変化への迅速な対応を可能にします。

データ連携開発・運用コスト低減

運用や追加開発時の影響調査には大きなコストがかかります。システム間を疎結合にすることで変更時の影響範囲を局所化し、データ連携の開発・運用にかかるコストを低減します。

導入シーン

基幹システム更改に併せてデータ連携の整利化に取り組むお客様が多数

M & Aによる
アプリケーション統合

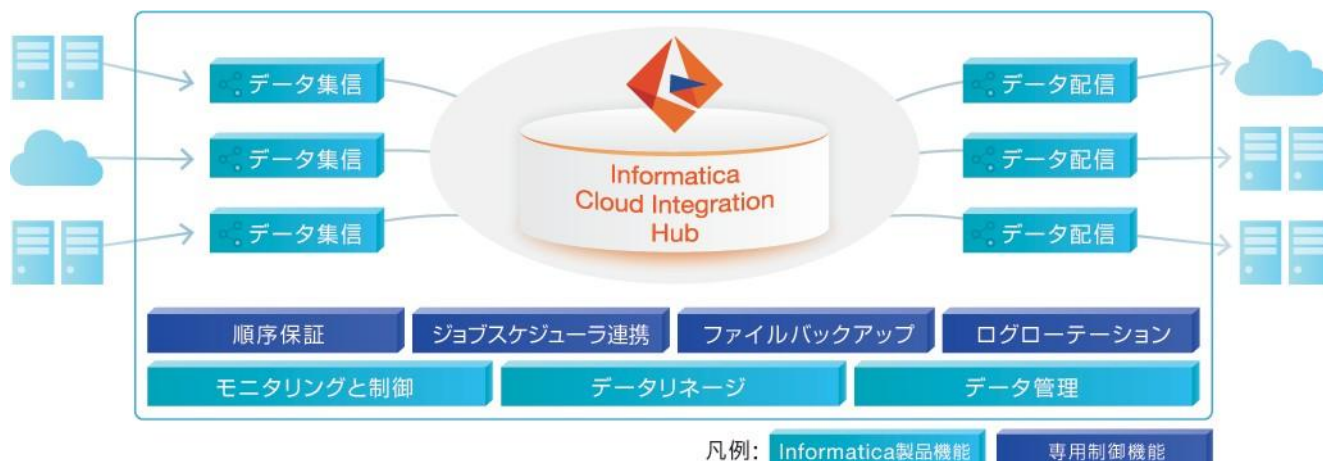
SAP導入・
グローバル展開

Salesforce 等
のクラウド導入

ソリューション特長

データ連携を送信 (Publication) と受信 (Subscription) に分けることで、データ連携を疎結合化。1 回の送信で Hub に取り込んだデータを、異なるタイミングで複数の場所へ配信出来るため、各システムの統合要件に応じたデータ集配信管理を可能にします。

お客様要件をCIH の製品機能だけで実現できないケースにおいては、要件に合わせた専用の制御機能をご提供します。



導入時のよくある課題

- ✓ システムが多種多様に渡り、適切な連携方式やアーキテクチャがわからない連携IF数
- ✓ が大量にあり、予算・スケジュール内で開発できる体制が築けない
- ✓ 多数ある連携先との調整が必要のためステークホルダが多く、マネジメントが困難

NTT データのサービス

データ連携基盤のアーキテクチャ検討から運用サポートまでトータルにご支援

アーキテクチャデザイン
コンサルティング

データ連携基盤設計 ・
構築サービス

データ連携基盤
運用サービス



アーキテクチャデザインから対応

データ連携を専門領域とするアーキテクト集団がお客様システムの特性を踏まえ、適切なアーキテクチャや連携方式を選定



豊富な導入実績

2000 I/F 超の大規模開発をやり抜いた盤石の開発体制とマネジメント力数々の実績を通して洗練された開発プロセスを保有



データ活用・AI 活用領域もサポート

データの出口であるデータ活用や AI 活用領域でもソリューションを提供
データカタログ・データレイクへの展開や、DataRobot 等の AI 活用・アナリティクスまで、全プロセスをご支援

インフォマティカとのパートナーシップ

NTTデータは、データマネジメント領域のグローバルリーディングカンパニーである株式会社セールスフォース・ジャパンのソリューション&SIパートナーです。さまざまな連携・統合製品を用いた豊富な実績をもとに、インフォマティカ製品のバリューと、NTTデータのノウハウを最大限に活かしたデータマネジメント基盤を確実に構築します。



Informatica
from salesforce



株式会社 NTT データ
インフォマティカお問合せ窓口

〒135-6033 東京都江東区豊洲 3-3-9 豊洲センタービルアネックス

メール : informatica-info@kits.nttdata.co.jp

Webサイト : <https://www.nttdata.com/jp/ja/lineup/informatica/>

※記載されている会社名、製品名、サービス名等は、各社の商標です

2026 年 9 月